

2020（令和2）年度事業計画書

2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日まで

I. 活動計画

1. 共暮らしの住まい事業（ホームホスピス秋田・くらの家・手形）の運営

4月1日現在8名の入居者。苦痛から解放され、ひとり一人が人生の終盤期迄その人らしく、気持ちよく、安寧に過ごせるホームホスピスでのケアとはどういうものか考え実践する家作りを目指す。

2. 共暮らしの住まい事業（ホームホスピス秋田・くらの家・土崎）の開設

総工費五千万。内、日本財団からの助成金千六百万受給予定。完成予想本年2020年中を目指し、各方面と調整中。秋田市北部の土崎港西2丁目4番地の借地に入居者人数7名の平屋建一軒家を設計準備中。

3. 訪問看護拡充

2019（令和1）年8月より管理者を置き、現在2.5の人員登録で稼働中。くらの家の入居者のみならず、訪問ステーションが自ら開拓、紹介を受けた外部の利用者さんも獲得し、今後事業展開収益部門筆頭となる見込み。利用者数、収益数を見た上で、今期、看護師1を増員予定。

4. 訪問介護事業の継続

2018（平成30）年9月～「訪問介護事業所」をスタートし、くらの家手形でケアサービスを実践中。翌年1月～は、秋田市からの認定を受け、障害福祉サービス事業の中の「居宅介護支援」と「重度訪問介護事業」を展開している。今後も障害があり、ケアニーズの高い方々の支援に当たる。

5. CCRC 暮らしの保健室開設・運営

銀行、信用金庫、レストラン、市民の憩いの場、病院等が集積された複合型高層マンションが秋田駅西口にこの10月にお目見えする。そこの2階に、誰でも予約無しに自分や家族、友人知人の介護、健康、癌末期でも自宅で暮らす等の相談を常駐の保健師に相談できる町の保健室を設置する。健康や暮らしに役立つ勉強会やイベントを開催し、ホームホスピスについての啓発活動や認定NPOにするよう会員獲得、延いては訪問看護利用者を得られるようにする。総工費約450万。内、200万は赤い羽根共同募金会からの助成。家賃（13万7千円/月）負担：株式会社メディハーツ。管理費（6万/月）NPO負担。運転資金として300万を借入予定だが、訪問看護の収益等によっては今期、遅くても来期には全額返済可能。

今期は、コロナウィルスの蔓延により緊急事態宣言が発せられ、イベント、研修、勉強会等の自粛が求められている中での事業展開となり、理事会、総会等といった決議機関のスムーズな決定が困難な状況である。いつ何時、好機到来とも限らない。どう展開しても必ず道筋だった事業となるよう準備万端にして一つ、一つの事業に向き合う。

コロナ騒ぎが落ち着き、時期が来たら、今期延期となったホームホスピス協会東日本支部の会員として、研修当番の任を全うする（今期7月11日・土曜日・会場を遊学舎として、一般市民及び学生、医療、介護、看護の人々を対象に、もっと「ほーむほすびす」を知る、考える研修を予定していた）。

